

雜集

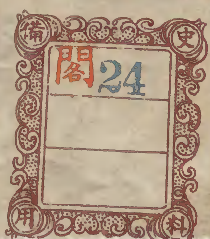
鈴木大

共六冊

抄録了九

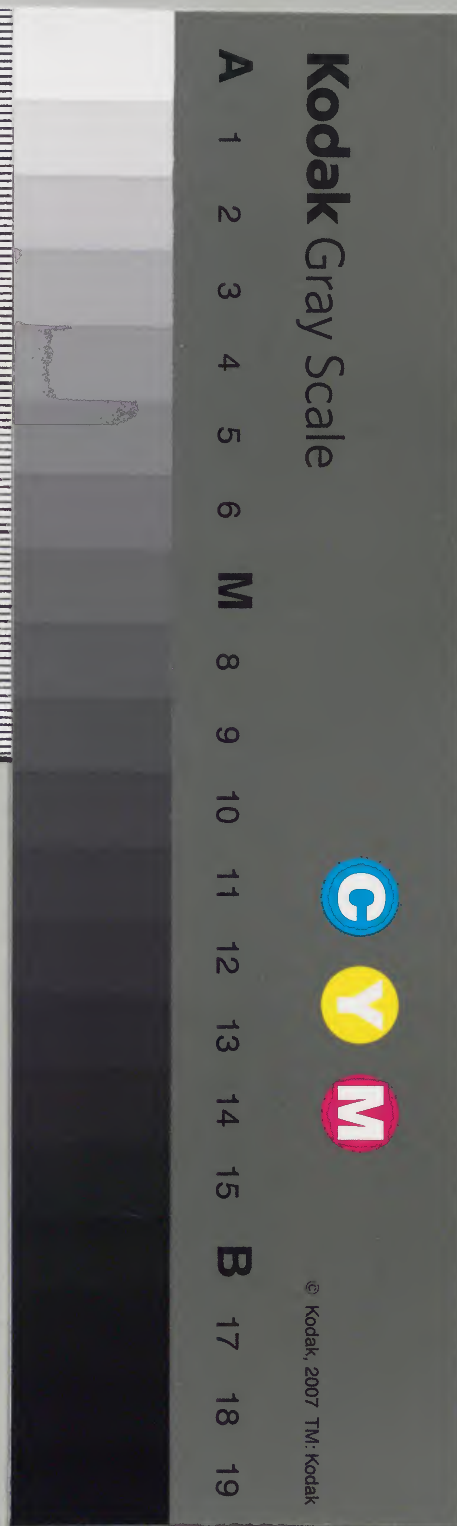
和書門
三六〇五一
二二四
三四
三八冊架函號類

和書
三六〇五一
二八冊架
一五〇函北三架
內閣文庫



史五八

內閣文庫
番號 和 36051
冊數 38 (29)
函號 150 155





梅村書局

二冊三分

高島五三郎公 御政事

レニシヤハシク 前書

本島海軍 同書

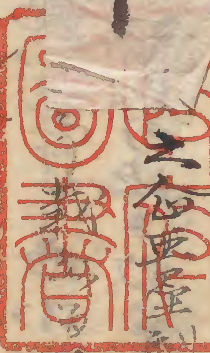
多量多量稿

七五 新稿

甲子一神 新稿

日下田 新稿

及外 新稿



あに  
七十一丁

高島五三郎の御政事 甲子一神 日下田 及外

多量多量稿 七五 新稿

本島海軍 同書

レニシヤハシク 前書

高島五三郎公 御政事

梅村書局

二冊三分



梅村書局

北下カ  
地

上海 新稿











存ありき人の税は昔より書冊下敷にありしものなり日本公知

ききの法律に長し多かりしを人々採りて法律に改めたるなり

一 けいひの貿易航路を苦むるにわたりて其の禁禁をゆるぐこと無き

ものなり蓋し其の當りては其の禁禁をゆるぐこと無き

一 改法にの按れを憚りしと改法の法律に改めたるなり

一 北の諸島に於ては其の南の諸島に於ては其の北の諸島に於ては

人々貿易するに其の禁禁をゆるぐこと無き

一 其の必許しをゆるぐこと無き

一 其の必許しをゆるぐこと無き

一 其の必許しをゆるぐこと無き

一 日本の中世の市店に於ては其の諸島に於ては其の必許しをゆるぐこと無き

一 其の必許しをゆるぐこと無き

一 其の必許しをゆるぐこと無き

一 其の必許しをゆるぐこと無き

一 其の必許しをゆるぐこと無き

一 其の必許しをゆるぐこと無き

一 其の必許しをゆるぐこと無き

一 其の必許しをゆるぐこと無き

一 其の必許しをゆるぐこと無き











一カリホルニア<sup>地</sup>オレゴン<sup>地</sup>の海岸を大なりと亞墨利かの益業ありて印

度なる海色航路増し南海の南緯魚船業しと年々及ん

て領の海岸地業オホクカ<sup>地</sup>カハシカ<sup>地</sup>トカ<sup>地</sup>ヒリ<sup>地</sup>ンク<sup>地</sup>スタ<sup>地</sup>ラ<sup>地</sup>ト<sup>地</sup>及水海を

通航せらるるは色港の移移九千三百思小百人丁三万五千子

色収業といふと氏色航路を可なり海を植植大航利大厄厄の

手よりふら子豫り海平可なりとを掌持せらるるの報業なり

一世界日本港の付シヨ<sup>地</sup>ーグ<sup>地</sup>ニは移移も政政の況ありて子セツ

一亞墨利かの海岸及び航路の地海フレ<sup>地</sup>ン<sup>地</sup>ト<sup>地</sup>可なりとありて海の色

拘り政餘アタラ<sup>地</sup>海<sup>地</sup>利<sup>地</sup>太<sup>地</sup>平<sup>地</sup>海<sup>地</sup>色航路の地海フレ<sup>地</sup>ン<sup>地</sup>ト<sup>地</sup>可なりとありて海の色

グ<sup>地</sup>子<sup>地</sup>テ<sup>地</sup>ー<sup>地</sup>セ<sup>地</sup>レ<sup>地</sup>ガ<sup>地</sup>ラ<sup>地</sup>ー<sup>地</sup>フ<sup>地</sup>の品移也レオレゴン<sup>地</sup>カ<sup>地</sup>リ<sup>地</sup>ハ<sup>地</sup>ニ

地と大洋接々子拘るなりと亞墨利かの海海可益等移の高減亞墨利

かの陸戦海軍の強弱大ニなるなり一式法療なる一式令院の加況内陸云

客即ち海電天文航海各字云工者の事物草木烟草等の種苗者他

坑業概略子拘りて亞墨利かの国証子ヨ<sup>地</sup>ル<sup>地</sup>リ<sup>地</sup>地<sup>地</sup>ホ<sup>地</sup>ス<sup>地</sup>ト<sup>地</sup>ニ<sup>地</sup>言<sup>地</sup>の<sup>地</sup>種<sup>地</sup>地<sup>地</sup>其

他者質亦物他証フレ<sup>地</sup>レ<sup>地</sup>シ<sup>地</sup>テ<sup>地</sup>ト<sup>地</sup>及<sup>地</sup>七<sup>地</sup>友<sup>地</sup>の<sup>地</sup>畫<sup>地</sup>像<sup>地</sup>但<sup>地</sup>ガ<sup>地</sup>ケ<sup>地</sup>リ<sup>地</sup>は<sup>地</sup>の<sup>地</sup>種<sup>地</sup>也<sup>地</sup>以<sup>地</sup>テ

宮し勿りてし番教子なる十九年の亞墨利かの事必を本海毛織林

式マ<sup>地</sup>グ<sup>地</sup>テ<sup>地</sup>レ<sup>地</sup>イ<sup>地</sup>テ<sup>地</sup>ー<sup>地</sup>フ<sup>地</sup>の<sup>地</sup>圖<sup>地</sup>識<sup>地</sup>あり

一け教示崇子易し未印交侮一市の軍艦といふ者必海の以所航路

より七海運りてしとふとけ船物亦く亦幼也へしと我政計也

口所政計の短の意厚く其和政後の地証必況老ニ高航業の事也

口所政計の短の意厚く其和政後の地証必況老ニ高航業の事也











時常船より天突を越り 本所岸の傍を走し其の船中を  
らり所あきと以て也物又控哨へり志は不意に諸氏とす  
及幕丸の時 是港内より先船を凌ぎ破船を捕らぬ  
不劫を嫌ひ突如の居るあり 説とせしゆん也を可く  
究民報家とらゆし者其の矢し

（Faint handwritten text, possibly bleed-through or a separate entry, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.)

舟

書云云あり

簡にしてたゞせり  
を自派とて沈没  
法屋は可也

船六隻あり相争ふ所船の浦を「ハア」カ内「カ」ルニ一説ニ  
「カ」シグト「ト」リト云 事船後事し以て舟より舟へ分るる也

一 穴目言未上刻アリ也 水豆等下向中 帆影未見 亦向中刻浦船港へ

四艘を沈す也 舟の三

一 フレガット 軍艦 我艘二十名位 大砲十一挺 左 舟より付火門を人出づ

後より大砲を擧げたり 帆影未見 前橋 紺地 白星 少旗あり 後橋より

紅下白上 四五名位 而アル武三火位 紺地ノ有命遠 紺地ノ有命アリ

其船幅を人位ノ厚キ 旗影未見 舟より付火門を人出づ 帆影未見 三帆

船影未見 ハシゴハ 繩又木モアリ 上下進退自在ナリ

一 火輪船 我艘五十名位 五名位 旗本輪 左 右 付 船ノ

中程より人位ノ位 旗影未見 舟より付火門を人出づ 帆影未見 三帆

相出ル 旗影未見 圓アリ 船影未見 武三火位 舟ノ出ル 白見







- 一 一ノ早ニテ、予、得内邦高屋、事、命、中、及、方、成、出、体、一、ス
- 一 江、東、海、火、船、船、の、時、口、ッ、テ、一、ラ、四、艘、先、之、淺、海、ヲ、測、量、シ、テ、州、ノ、海、路、  
三、廿、五、遠、文、自、在、之、性、身、ス、
- 一 蓋、事、取、経、海、の、時、四、名、ノ、方、多、如、此、カ、ク、レ、比、及、ハ、ス、
- 一 古、浦、多、ク、身、一、戸、田、伊、豆、等、一、切、都、加、勢、万、人、出、ん
- 一 同、日、伊、丹、家、ノ、殺、七、八、万、加、勢、出、ル、陣、代、三、層、肉、屠、ク、リ
- 一 一、分、備、置、多、ク、ア、リ、カ、カ、ル、ホ、ル、ニ、ヤ、一、視、ニ、書、籍、方、元、ノ、用、ニ、テ、是、等、ノ、井、戸、ノ、見、書、  
「カ、リ、シ、ン、グ、ト、ン」
- 一 取、出、得、州、中、務、少、輔、松、平、十、五、名、出、地、ニ、任、書、名、一、本、戸、ノ、性、病、多、ク、  
其、外、也、
- 一 此、方、之、官、屋、之、川、城、傍、傍、思、意、取、取、四、家、園、ニ、是、人、之、籍、出、多、ク、是、場、ハ、  
是、方、ノ、一、事、取、ト、ニ、懸、後、ノ、不、斗、屋、根、ヲ、キ、外、ハ、是、等、地、ノ、上、地、三、方、四、面、外、  
圍、八、百、ニ、十、百、位、由、三、井、四、方、等、ノ、屏、風、多、ク、又、也、
- 一 此、方、之、官、屋、多、ク、ア、リ、カ、人、武、十、人、位、上、地、也、一、三、ノ、亦、是、卒、三、方、人、余、以、

- 一 卒、ニ、テ、是、種、球、シ、テ、布、被、ハ、一、層、也、毛、白、  
考、事、リ、ノ、ボ、タ、ニ、カ、ケ、ス、ワ、口、ヲ、白、膝、引、ニ、テ、  
ケ、一、ル、持、テ、敵、軍、ニ、テ、一、以、軍、又、一、音、果、ア、リ、十、名、ノ、以、持、押、之、他、テ、  
酒、練、ニ、テ、操、也、是、等、一、也、不、ニ、固、ノ、是、等、外、河、岸、園、ノ、其、上、ニ、テ、是、等、之、  
所、射、野、射、ス、フ、ホ、フ、ホ、タ、ニ、カ、ケ、ス、操、ノ、少、シ、ト、ア、ル、彼、大、者、多、ク、是、等、人、持、引、ニ、テ、  
劍、ヲ、ハ、キ、六、挺、カ、ラ、ク、リ、ノ、ヒ、ス、ト、一、挺、ヲ、皮、ノ、代、名、ノ、入、纏、ニ、付、其、外、士、女、ノ、是、等、皮、  
之、十、人、余、各、劍、ヲ、ハ、キ、ヒ、ス、ト、一、挺、ヲ、玉、込、ニ、纏、付、身、ノ、丈、六、尺、余、ノ、是、等、武、  
人、ヤ、一、ケ、ル、一、挺、ヲ、背、テ、陣、取、ノ、内、入、ル、
- 一 上、段、ノ、内、ニ、是、方、向、伊、豆、等、井、戸、名、也、是、等、通、河、毎、獲、好、平、者、人、三、五、外、少、量、ノ、  
人、也、
- 一 同、日、ハ、府、内、多、ク、是、村、中、勢、下、云、ノ、一、仲、ノ、一、殺、共、カ、ル、事、下、地、等、ノ、向、  
テ、是、等、事、取、ノ、殺、之、事、取、久、事、取、リ、也、
- 一 十、万、平、船、一、艘、何、時、左、所、以、是、沖、ノ、舟、又、是、引、ノ、事、也、一、入、ル、即、刻、  
毛、利、江、ノ、人、治、也、河、ノ、各、浦、等、也、舟、ノ、取、引、也、







此船は人形船なり  
四家船定人の船  
さうしう

一合舟 十人

一川船 十人

一忍 十人

一三根 十人

但し三味七音  
抄師

我船向より内園より四半位吾船係る来り未だ船中  
有る日多し多し其御座候事其御座候事其御座候事  
御座候事其御座候事其御座候事其御座候事其御座候事  
の御座候事其御座候事其御座候事其御座候事其御座候事  
出陣

美人寄り

一上友 名ハ「ホント」マツテヒト

一初水 名ハ「アール」アールダムス

一アメリカ 名ハ「アール」アールダムス

一其官 名ハ「アール」アールダムス

一セリ 名ハ「アール」アールダムス

一カカ 名ハ「アール」アールダムス

合原伊三郎ヨリ関書畧

四艘共ハツテヒト八艘位アリ 五日ハツテヒトニテ  
越持場観音崎臺場園ヲ取其上ニ上陸ナサントス役人立出ヨリ  
船ト事交リ此方ヨリ彼是申交ニ一向取合申サス落ツ  
定候到ト相見え 〇六日九ツ半時蒸氣船一艘江ノ方  
艘ヲ測量シテ川越ノ一舟ニテ指置候處 艇ヲ抜舟  
致シ馳過リ或艇付銃炮ニ真丸ヲコト此方舟ノ三間先  
越人教怒ニ堪ズ早舟ヲ以テ浦賀ニ同合セ只今乗込候  
義ナリ切シツ申スヘシトノ浦賀ニテ御尤ニ候ハ  
有且一艘切沈ノ候トモ事済候ト申ミコトナク諸家行届  
ヲ聞キ候テハ忍入候間先ニ穩便成サレ候様ト有之候且  
シ大事ヲ引出シ交テハ不相成トテ役船ニ艘ヲ指出シ  
異船ノアト月登固イタシ候右

置可程



後船ハ陸上見物人ヲ持押一諸家ヲ疎忽ニ手出シコレナキ様制禁スル為ニ指出シ及テ  
異船ヲ取押ル為ニ非ス右ニ付異船ハ早船ヲ以テ只今一艘江戸海へ乗込候如何ノ  
趣意ニ及ヤト相尋候異人答曰此度持参ノ書翰御受取ニ不相成節存意通リ  
取り計候下故内海測量イタシ度ワザ指遣ス所ナリ也晩景ニ返リ申取(シト云  
右船富岡ニテ測量イタシセツ半過元ノ処漕戻候。○九日栗濱ニテ書翰請取ノ  
異人申通シ置キ當日ニ相成リ只今ヨリ参リ女様申通候处早速蒸氣船二  
艘波ヲ分ケ迅速ニ馳来リ岸隔ル下拾下計ニテ止ル此所深サ九口在夫ヨリハツテヒラフ二艘ノ  
蒸氣船ヨリ十五艘却シ上陸終テ大鼓ホラ貝笛ヲ鳴ラシ緑コム小屋服ヲ浦賀人  
救ニテ固ルル小屋ノ左右ヲ彦根川越ノ人数ニテ固ム何モゲベル銃ニテ緊ク固メ彦根川  
越備ノ前ヲ歩行キ組頭様ノ者叙ヲヒラノカシ指図又浦賀人数固ヲ見テ異人モ耳  
コソリニ致或ハ指サシナトシテ尽ク嘲弄イタシ候様子ニ相見ヘ無念イシ方ナシ又異人  
調練ノ能整候下奇妙驚入及前日撮合ニ上官共二十人程ニテ上陸ノ答ニ候處

案ニ相違シ多人救上陸其上ニ不意ニ六十人計押込上官奉行ノ服ニ立塞リ此方何モ  
仰天ナリ彼是製候ハ直ニ奉行虜ニル様子故其マニ改置処先無事ニテ事済  
ニ異人イッテ本船へ引下リ浦賀ニ向テ馳軍船ト申合セ一同出帆ノ義ト心得居リ候  
処案外軍船ヲ引連波ヲ合ケタテ内海へ乗込候ヤト撮合候異人ノ以後返翰受取りニ参候  
夕ガ出帆モ不致返テ内海へ乗込候ヤト撮合候異人ノ以後返翰受取りニ参候  
前ハ数艘引連レ大軍船三艘参リ及下ナリ浦賀ハ舟越リ場宜シカラズ依テ此辺  
測量イタシ置キ乗込也也右一艘撮合ノ為ニ此度ハ残シ置アト不残此辺ニカトルト云リ  
同日ニ大師河原へ一艘ノリ込十二日ニ野島へ分テイラ二艘ニテヨキヨセ上陸水ヲ汲  
ントス役人取押へ水ヲ汲テ下フ此時モ劔ヲ抜テヒストウヲ放テ見物人ヲ怖シ  
右滞船中出帆可致ム子撮合候处測量未タ行トカズ故ニ滞留致居候申答ヲ  
依テ勘定奉行ヨリ内海へ滞留留テ甚不穩免モ角モ引戻レ候様御達ニ付  
浦賀マテ引戻候様精ニ撮合候处ヨウ十日朝大津マテ猿島近辺金沢



迄尽ク測量ス。○十日朝四時比蒸気（女同航字アリ）艘ヲ軍船ヲ網本ニテ繋キ相筒ヨリ火  
火ヲ吹出シ元カ如ク出帆也。ミ沖ヨリ火欲コト甚ク迅疾并倍セリ見ル者驚カサ  
ルハナシ。○彼ニ本國ヨリ急ケル見九日比此地ノ着度ハ十四日致候ヨシ海上二万  
五千里。○通詞申五ニ彼カ未明年正月ハ此方ノ十月十一月ノ比当ル左スレハ冬  
ハ来リ不申未年三月ノ比モ可有之歟合原云彼申事アテニ成候ヲモナシ彼地ヨ  
リ十日内ニ往来致候申ナレ来月モ渡来難計且以後ハ数艘ニテ来候ニ申候  
ハ是亦何十艘ニテ参候モ難計庶堂ノ御了簡如何ニ候ヤトコニテ彼カ申候  
御隨被成候ナレハ是ニテノ御手當ニ宜シク候ハ御國威ヲ大切ニ被思召候御了  
簡ニ候ハ是ニテノ姿ニテハ速モ参ラサル義ニテ此上御甚工場ニケテ御増位ニテハ  
失費ニテ何ニモ成不申江戸内海ハ勿論何トカ嚴重ノ御備被仰付タキ義ナリ  
大軍船製造モ中間ニ合申間シク又二艘出来ニ相成カ氏頼ニモ相成申サス又蒸  
気船如何程手厚ニテモ三貫目位ノ筒矢比ニ引受相放チカハ必ズ打貫ケ申スハ

クト存候先日丁打ノ節三百目ニテモ三ノ木一尺二寸カク木ヲ立テ五丁手前ヨリ打  
試候ニイトヤスク打貫申友誠ニ火勢ハ意外ニ強キ者ト感心イタシ友ソレヲ以テ  
三ニハ随分三貫メ以上之筒ナレ異船打碎可申ト存候船ブチノ厚サ大回一尺六寸  
ニ相見申候。○會津候ヨリ浦賀奉行ノ使者ヲ以テ此度ノ異人前ニ渡来ノ切ト  
ハフテ尽ク諸方ニテ札坊日本ヲ蔑シ候段心外無此上存候拙者御預リ場  
ニ参リ右様ノ義有之拙者召連レ候家来ノ者氏見留候申申モ堪忍イタス  
間敷候（ウツ）萬一事ヲ起シ候テハ公道ノ御趣意ニモソムキ恐入候左様ノ節ハ当所ノ  
百姓氏差出シ相押ノ様可致間兼テ此段御承知被下候ヤウトノ御了誠ニ御  
尤ノ義上統風評罷在友。○昨日江戸ヨリノ御沙汰ニ江戸近海迄乗込セ測量  
イタサセ候不宣トノコト今更左様ノ義御沙汰ニハ当惑何モ間ニ合不申友。○異  
船ハ不残ナヤニテ又リ有之友今節ノ火天ニテトロケ居候右ハ火ノ片場キモノ  
ナレ焼討宜ク友様存友何卒焼打ノ手段工夫致度存友。  
右合原伊三郎ヨリナ



飯塚久米三郎ヨリ宛書

合意ト符合シタル處ハ  
ハツク相違ノミ

蒸気船軍船何レモ鉄ハリトテハ無之何カ鉄色ノ物ニテズリ其上チヤラ加ヘカ  
モノ也車輪ハ鉄ニテ造カ物也大サ色ハヤセ共恐ラクハ五六間ナルベシ  
ハツテイラ四五間ヨリ十間位ニテ大振ノ方ハ七八十人乗組ニ水手二十人位ト尺ニ尺位  
高サ五寸廻リノ儀尺也測量ノ時ハ是ヲ兩人ニテ見合テ測量スル者ハ先立文鎮之  
如クナル金細キ糸ヲ付ソリ目ヲモリ置投込ニ測量ヲ測リ行キ服ニ筆者有テ  
深淺ヲ書記ス○川越持亀ヶ寄上陸相違無クハ様々判シ首ノ方○本牧滞船中  
榎合ニ参リテ其処異人云四海ノ内水上ノ我ハ一体ニ誰彼ノ領分ト申ヌナシ我  
ト他國<sup>ヨリ</sup>参リ海ヲ測量イタス共陸ノ間ヲ打共案内コソ致サ子共女モ榎ノ不申ト  
ニリ○始終榎合ノ節使節上官ノ者ハ對面致サス副將者出席致カ事  
○此後返簡受取りニ参ル時ハ日本王ノ書簡ヲ守固シ返リテ故方人数ニテハ  
日本ヲ教スルニ當ラス右故軍船教艘仕立尚更大軍艦二艘程引連レ参ルベク

此度ハ我國王ノ書簡故是程ノ人数ニ参リテ及申テ及○フレカワト軍船大砲  
二十四門蒸気船大砲八挺位各野戰筒モ教艇有リ九里濱上陸ノ時往來  
共送り迎ヒ致シ蒸気船上リ船中大体一見イタシテ及処ソトヨリ見テトハ相違ニ而  
廣大ナルモノニテ一目ニテハ見限ラレ申サス○蒸気船車輪市ノ仕榎是亦廣大ニテ  
更ニ相分リ不申テ及○出翰請トリ渡相濟候後異人悦喜ノ様子ニ<sup>相</sup>見テ及  
本舟ハ改リ候セツモ離杯ヲ勸メルトテ酒ヲ差出テ及○送トキ送りマイリ候処直  
ク酒ヲ出シテ候船中一見暫ク手間トリ返リテ及○書翰受取ノ節何カ六  
ヶ敷トテモ申シテ及ヤト大ニ心配居ル處何事モ無ク安心イタシテ及

栗濱上陸之節此方ノ固金多虚飾ニテ実用ノ義ナシ彼亦教言固ハナリ申サス却テ  
嘲弄ヲ招キ由ニ及畢竟穩便ヲ專要ニ致テ及ヨリ何トモ手薄ニ成行テ及ナリ  
○ケル組世人二人宛ノ指揮アリ叙ヲ授テ下知ス隊伍行列イカモ能整ヒ及ニ手足







御手当ノ義被仰出モ無之筒井紀伊守殿ヨリ嚴重ニ御手当無之テハ不相成旨シキリ御申  
立ニ相成女更ニ取受無之ヨリ昨暮ニ至リ四家ノ御達ニ相成浦賀奉行モ月節御達  
有之方処又ゾロ奉行秘シテ与力ハ一切通達無之方扱当ニ三月ニ至リ追ニ時節モ相成女  
ニ舟紀伊殿ヨリ御手当向御申出シ之御取用一切無之由恐ナカラ當時之御役人ハ異舩何ホ  
ト来ル日本ノ鉄炮ヲ出シ示サハ直ニ返ルニ位ノ腹合也慨歎ニ堪ヘス○蘭人兼テ通置  
及通リ上官ノ名舩敷スベテ符合只四月ト申処六月相成女ノ相凌○六月三日九里ハマ  
ニテ丁打有之方心一ヨリ居ハツ時大抵打切り女ニ休息致居方処ハ俄ニ異舩相見え  
ル由ニ夫驗立十何ヨリ注進致シ女ヨ右ニ付トルモノモトリアヘス九里濱ヨリ浦賀迄山越ニテ二十  
丁斗リノ処馳セ帰レハ忽然ト四艘ノ舟浦賀ニ乘リ控ヘタリ其神速タツルニ物ナシ早速  
役舟棄リ出シ方処彼レ申ニ決メ乘リ上リ候了無用也此度未舩ノ義ハ蘭人ヨリ通達イ  
タシ置フニ江戸ニテ元ヨリ承知ノ義也コニテ彼是懸合女ハ不及只入津ノ趣ヲ達シ  
吳候ヤウ申ニ付コニ方答曰江戸ニテ御承知ノナリ凡我ハ不存義只入津ト計リ申

立ナリカタク女意味承知之上早速申達イタスニト云然ラハ通訶ノ者登ラセ申ヘクト云存  
通訶一人当番ニテ中島三郎介可奈処奉行香山榮左門内意モ申合置方同香  
山ヲ遣シ候様ノ差圖ニ付キ右一人ニテ心接致シ申女  
香山内意云ニ舟内役不平等ニ議論  
相起リ甚タムテ敷義有之方処是ハ仲  
同ノ了故委細不申上ト云テ止リ山  
一人ニ托ルハ深キ意味有フ由也 ○異人ハ番舩ナトアリテ誠ニルサシ其方ニテ屹ト御申  
舟被成度モシ制法行届子ハ近ツケル舩アラハ此方ニテ成敗致スヘシ此方云何ヲ以テ成敗  
スルヤ異人答曰鉄炮ニテ制スト云実ニ不届ノ申分ナリ併シナカラ此方ニテモ能制シテ舩  
ヲヨセヌ様致スニ其方ニテモ近見フヲ禁スベシト約定致シ浦賀ヨリ役舟ヲ差出シ近ヨ  
ルヲ禁スベシト約定致シ浦賀ヨリ役舟ヲ差出シ近ヨル舩ヲ制シ又陸上見物人ナトヲ  
制シ突当ナト出来ヌ様用心致シ方然ル処異人ツニ乘リハツテイラニテ自由ニ潜キアルキ  
処ノ人ナキ処ヲ山ギハ杯ノ上陸致シ九里濱ノモ上陸致ル由ノ土地ノ者共承リ了候ノ書  
筒受取ノ場所粟濱ト申所ハ御指圖ニ相定メ四間三間ノ小屋上段ノ間ノ迄ニ仕来下  
向ニ置敷十畳ノキナラ板ヲカコヒ四方金屏凡ヲ立マワシ幕ニ重ニ張り入口ニ間ホト

浦賀ニ補置  
ニ付テ



上官トモ上段ノ間マテノ通り道ニモセシテ敷ナラシメ浦賀人数備ケル四十人挺合原樋口  
二人ノ与カ付テ野戦ノ百目ニ挺コレハ下曾根金三郎持テ御備ト申スハコレキリナリ  
九里濱上陸人数ハ練出調練能トシ其美事言語ニ述難シ一月幕内ノ入り込ノ前  
列ヲ一行ニ立テ上官将官副<sup>将小</sup>集屋ノ内ノ入ルト直ク六十人程俄ニ踏込上<sup>段</sup>官ノ間ノ立フサカリ  
何モ叙ヲ佩シ六挺仕懸ノヒストウルニ玉ヲコニスハト云バ切ツテ放ツ勢カテ睨ニ控元下タシノ  
間ニ居ル応接方既ニ踏倒セル程ノ様子奉行見カ子是ハアカレト申ニ付ヨウノ上段ノ間ノア  
カリ其場ヲシノキ及ホトノフテ大ニ睨ヲ拔レ中ニ差留ルヲナド出来申サズ一日無念ノ  
嵩カニシナシタルニ是ト申セ全ク公辺穩便テ御沙汰嚴キ故ク鉄炮ハアレ玉ヲ  
コニス火繩ニ火ヲ付ズ大ニ異人共ニ威ヲホセ返リ無念ノ一候サテ香山榮左門書  
翰請取奉行ニ渡ス奉行一礼シテ受取ソノ義相済返簡ノ義ハ前日批合ノ節蘭人  
申通ス和旨申達方外彼云蘭人ニテ事増明及ナレハ是迄未船モイタ<sup>サ</sup>事様手遠  
キヲミテハ指支ル間早速返簡受取度ニ申ニ付此方云ケ様ノ義ハ重キ丁ニテ評定モ

日教カリ中ニ火急ニハ出来不申左様ナレ待ケ居可申ト云ケ方云ケ義ハ江戸ニシテ裁判  
不相成 天子ハ奏聞致シ重キ御評定ニ相成及故ヨホト日教モカリ及フナリ書簡  
受取ニ相成上ニ先ツ出帆シ及様申談及所左及ハ先出帆ニテ月ニ過キ冬未船致スニ  
若シ間ニ合ス及ハ未年ニ致スニト云申頼船モ中途ニ残シ置及由ノ異人云ケ度ノ上官  
ハ國王ノ命ヲ待タス何トモ独断ニモ裁判致及ホドノ重役也ト云又軍艦ノ總將軍ハ今度  
軍功ヲ立サレハ蒸氣ノ大将ニナラサルシノ異船コベリニ尺位カ下ノ方程段ニ厚ク相見ユ  
鉄板ハ実子ハリ水ハ銅ニテ包海深サモ口迄ハ通船ノ由ノ川越実体御奉公精勤落  
チ度ナキ様ニ心機候様子感心去ナカラ身上負ノ方ニ太守ハ知也總方事家老持ニ思  
フ様ニ届キ不申及ノ細川本牧御固メハ浦賀ヨリ与カ参リル処山ギハナドハ竹ヤラヒヲ  
結廻シ木戸ヲ付嚴重ニ相固メ方端行届及様子ニ見申及評判巨キ方ノ四家人数内倉  
津殊ニ評判宜シク又用兵申ヘク井伊家ハ甚武事情ノ士気モ弱ク被存及及度軍艦  
数艘製作有之及処浦賀船大ニ受トリシカト軍艦ノ固ヨリ存ルト申フモナク大ニマカセ



思ヒ廿次才ニ致置キ彼所<sup>ノ</sup>詮<sup>ヲ</sup>受<sup>テ</sup>モナク大金ヲ費シナカラ<sup>シ</sup>心ヲ用ヒサル<sup>ヲ</sup>言語<sup>ヲ</sup>断ナ  
リ右様ノ船何<sup>ト</sup>有<sup>之</sup>及<sup>ト</sup>モ必用ニ相立申間<sup>ニ</sup>コレ<sup>ヲ</sup>人オモナク武事<sup>ニ</sup>心ヲ用サル<sup>ヲ</sup>察  
セラレ及<sup>テ</sup>十五万石<sup>ノ</sup>神原<sup>ナ</sup>ト<sup>ニ</sup>被仰<sup>付</sup>方<sup>又</sup>テヨ<sup>シ</sup>カルベク存<sup>存</sup>方<sup>ノ</sup>凡<sup>凡</sup>説<sup>ニ</sup>其<sup>其</sup>節<sup>節</sup>唐<sup>唐</sup>主<sup>主</sup>明  
末<sup>末</sup>ノ兵<sup>兵</sup>起<sup>起</sup>リ清<sup>清</sup>ト取<sup>取</sup>合<sup>合</sup>最<sup>最</sup>中<sup>中</sup>ノ由<sup>由</sup>英<sup>英</sup>吉<sup>吉</sup>利<sup>利</sup>明<sup>明</sup>ノ救<sup>救</sup>テ大<sup>大</sup>ニ戦<sup>戦</sup>フ由<sup>由</sup>ア<sup>ア</sup>メ<sup>メ</sup>リ<sup>リ</sup>カ<sup>カ</sup>其<sup>其</sup>際<sup>際</sup>ニ日<sup>日</sup>本<sup>本</sup>ヲ手<sup>手</sup>入  
レントスル由

樋口氏ヨリ別書終

香山栄左門ヨリ算書

此度<sup>度</sup>応<sup>應</sup>接<sup>接</sup>概

六月三日<sup>日</sup>渡<sup>渡</sup>未<sup>未</sup>蒸<sup>蒸</sup>気<sup>気</sup>船<sup>船</sup>二<sup>二</sup>艘<sup>艘</sup>フ<sup>フ</sup>レ<sup>レ</sup>カ<sup>カ</sup>ト<sup>ト</sup>ニ<sup>ニ</sup>艘<sup>艘</sup>北<sup>北</sup>ア<sup>ア</sup>メ<sup>メ</sup>リ<sup>リ</sup>カ<sup>カ</sup>共<sup>共</sup>和<sup>和</sup>政<sup>政</sup>治<sup>治</sup>合<sup>合</sup>衆<sup>衆</sup>国<sup>国</sup>ノ内<sup>内</sup>ワ<sup>ワ</sup>シ<sup>シ</sup>ン<sup>ン</sup>ド<sup>ン</sup>都<sup>都</sup>カ<sup>カ</sup>リ<sup>リ</sup>ホ<sup>ホ</sup>ル<sup>ル</sup>ヤ

ヨリ<sup>ヨ</sup>リ<sup>リ</sup>船<sup>船</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>仕<sup>仕</sup>立<sup>立</sup>出<sup>出</sup>帆<sup>帆</sup>ニ<sup>ニ</sup>因<sup>因</sup>玉<sup>玉</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>リ<sup>リ</sup>書<sup>書</sup>簡<sup>簡</sup>二<sup>二</sup>通<sup>通</sup>持<sup>持</sup>参<sup>参</sup><sup>何<sup>何</sup>レ<sup>レ</sup>モ<sup>モ</sup>箱<sup>箱</sup>ニ<sup>ニ</sup>カ<sup>カ</sup>リ<sup>リ</sup>ホ<sup>ホ</sup>ル<sup>ル</sup>ニ<sup>ニ</sup>出<sup>出</sup>帆<sup>帆</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>リ<sup>リ</sup>十<sup>十</sup>四<sup>四</sup>日<sup>日</sup>目<sup>目</sup>ニ<sup>ニ</sup>当<sup>当</sup>地<sup>地</sup>着</sup>

相<sup>相</sup>成<sup>成</sup>候<sup>候</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>シ<sup>シ</sup>ノ<sup>ノ</sup>使<sup>使</sup>節<sup>節</sup>之<sup>之</sup>者<sup>者</sup>年<sup>年</sup>五<sup>五</sup>十<sup>十</sup>餘<sup>餘</sup>人<sup>人</sup>体<sup>体</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>シ<sup>シ</sup>ク<sup>ク</sup>名<sup>名</sup>ハ<sup>ハ</sup>マ<sup>マ</sup>ツ<sup>ツ</sup>テ<sup>テ</sup>ヒ<sup>ヒ</sup>リ<sup>リ</sup><sup>日<sup>日</sup>本<sup>本</sup>ノ<sup>ノ</sup>左<sup>左</sup>大<sup>大</sup>臣<sup>臣</sup>位<sup>位</sup>ニ<sup>ニ</sup>テ<sup>テ</sup>言<sup>言</sup>官<sup>官</sup>ニ<sup>ニ</sup>シ<sup>シ</sup>タ<sup>タ</sup>リ<sup>リ</sup>上<sup>上</sup>官<sup>官</sup>大<sup>大</sup>将<sup>将</sup>年<sup>年</sup>五<sup>五</sup>十</sup>

餘<sup>餘</sup>名<sup>名</sup>ハ<sup>ハ</sup>ッ<sup>ッ</sup>カ<sup>カ</sup>シ<sup>シ</sup>ン<sup>ン</sup>ノ<sup>ノ</sup>大<sup>大</sup>蒸<sup>蒸</sup>気<sup>気</sup>船<sup>船</sup>長<sup>長</sup>サ<sup>サ</sup>三<sup>三</sup>十<sup>十</sup>五<sup>五</sup>六<sup>六</sup>間<sup>間</sup>幅<sup>幅</sup>八<sup>八</sup>九<sup>九</sup>間<sup>間</sup>車<sup>車</sup>サ<sup>サ</sup>シ<sup>シ</sup>渡<sup>渡</sup>シ<sup>シ</sup>五<sup>五</sup>間<sup>間</sup>ガ<sup>ガ</sup>リ<sup>リ</sup>厚<sup>厚</sup>サ<sup>サ</sup>三<sup>三</sup>間<sup>間</sup>ナ<sup>ナ</sup>リ<sup>リ</sup>総

鉄<sup>鉄</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>木<sup>木</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>用<sup>用</sup>ヒ<sup>ヒ</sup>ス<sup>ス</sup>船<sup>船</sup>ハ<sup>ハ</sup>鉄<sup>鉄</sup>バ<sup>バ</sup>リ<sup>リ</sup>ニ<sup>ニ</sup>テ<sup>テ</sup>ラ<sup>ラ</sup>ズ<sup>ズ</sup>総<sup>総</sup>体<sup>体</sup>ニ<sup>ニ</sup>テ<sup>テ</sup>金<sup>金</sup>水<sup>水</sup>入<sup>入</sup>ハ<sup>ハ</sup>カ<sup>カ</sup>ラ<sup>ラ</sup>金<sup>金</sup>ニ<sup>ニ</sup>テ<sup>テ</sup>包<sup>包</sup>ム<sup>ム</sup>車<sup>車</sup>水<sup>水</sup>入<sup>入</sup>四<sup>四</sup>尺<sup>尺</sup>水<sup>水</sup>キ<sup>キ</sup>ハ

ヨ<sup>ヨ</sup>リ<sup>リ</sup>船<sup>船</sup>ブ<sup>ブ</sup>ナ<sup>ナ</sup>マ<sup>マ</sup>テ<sup>テ</sup>高<sup>高</sup>サ<sup>サ</sup>三<sup>三</sup>間<sup>間</sup>ナ<sup>ナ</sup>リ<sup>リ</sup>大<sup>大</sup>炮<sup>炮</sup>十<sup>十</sup>門<sup>門</sup>小<sup>小</sup>車<sup>車</sup>輪<sup>輪</sup>仕<sup>仕</sup>懸<sup>懸</sup>ナ<sup>ナ</sup>リ<sup>リ</sup>六<sup>六</sup>十<sup>十</sup>八<sup>八</sup>ホ<sup>ホ</sup>ト<sup>ト</sup>ノ<sup>ノ</sup>カ<sup>カ</sup>シ<sup>シ</sup>ン<sup>ン</sup>同<sup>同</sup>六<sup>六</sup>挺<sup>挺</sup>八<sup>八</sup>十<sup>十</sup>ホ

ニ<sup>ニ</sup>ト<sup>ト</sup>ノ<sup>ノ</sup>ホ<sup>ホ</sup>シ<sup>シ</sup>ハ<sup>ハ</sup>カ<sup>カ</sup>シ<sup>シ</sup>ン<sup>ン</sup>四<sup>四</sup>挺<sup>挺</sup>ノ<sup>ノ</sup>テ<sup>テ</sup>十<sup>十</sup>挺<sup>挺</sup>ナ<sup>ナ</sup>リ<sup>リ</sup>乘<sup>乘</sup>組<sup>組</sup>二<sup>二</sup>百<sup>百</sup>九<sup>九</sup>十<sup>十</sup>人<sup>人</sup>ア<sup>ア</sup>リ<sup>リ</sup>使<sup>使</sup>節<sup>節</sup>上<sup>上</sup>官<sup>官</sup>副<sup>副</sup>将<sup>将</sup>ニ<sup>ニ</sup>テ<sup>テ</sup>以<sup>以</sup>居<sup>居</sup>ル<sup>ル</sup>別<sup>別</sup>ニ<sup>ニ</sup>三<sup>三</sup>十<sup>十</sup>ホ<sup>ホ</sup>シ

ト<sup>ト</sup>ノ<sup>ノ</sup>野<sup>野</sup>戦<sup>戦</sup>筒<sup>筒</sup><sup>ニ<sup>ニ</sup>輪<sup>輪</sup>車<sup>車</sup>仕<sup>仕</sup>カ<sup>カ</sup>ケ</sup>六<sup>六</sup>挺<sup>挺</sup>貯<sup>貯</sup>置<sup>置</sup>ク<sup>ク</sup>ノ<sup>ノ</sup>少<sup>少</sup>方<sup>方</sup>蒸<sup>蒸</sup>気<sup>気</sup>船<sup>船</sup>総<sup>総</sup>鉄<sup>鉄</sup>ハ<sup>ハ</sup>リ<sup>リ</sup>大<sup>大</sup>炮<sup>炮</sup>十<sup>十</sup>挺<sup>挺</sup>野<sup>野</sup>戦<sup>戦</sup>筒<sup>筒</sup>六<sup>六</sup>挺<sup>挺</sup>乘<sup>乘</sup>組

三<sup>三</sup>百<sup>百</sup>人<sup>人</sup>ノ<sup>ノ</sup>フ<sup>フ</sup>レ<sup>レ</sup>カ<sup>カ</sup>ト<sup>ト</sup>軍<sup>軍</sup>船<sup>船</sup>長<sup>長</sup>サ<sup>サ</sup>三<sup>三</sup>十<sup>十</sup>間<sup>間</sup>ナ<sup>ナ</sup>リ<sup>リ</sup>大<sup>大</sup>炮<sup>炮</sup>廿<sup>廿</sup>挺<sup>挺</sup>ワ<sup>ワ</sup>人<sup>人</sup>数<sup>数</sup>三<sup>三</sup>百<sup>百</sup>人<sup>人</sup>ノ<sup>ノ</sup>野<sup>野</sup>戦<sup>戦</sup>筒<sup>筒</sup>六<sup>六</sup>挺<sup>挺</sup>宛<sup>宛</sup>ノ<sup>ノ</sup>船<sup>船</sup>中

昼<sup>昼</sup>夜<sup>夜</sup>ト<sup>ト</sup>ナ<sup>ナ</sup>ク<sup>ク</sup>提<sup>提</sup>燈<sup>燈</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>ツ<sup>ツ</sup>ケ<sup>ケ</sup><sup>ヒ<sup>ヒ</sup>ト<sup>ト</sup>ロ<sup>ロ</sup>色<sup>色</sup>ノ<sup>ノ</sup>角<sup>角</sup>ト<sup>ト</sup>色<sup>色</sup>ニ<sup>ニ</sup>テ<sup>テ</sup>リ<sup>リ</sup></sup>鉄<sup>鉄</sup>炮<sup>炮</sup>ハ<sup>ハ</sup>玉<sup>玉</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>コ<sup>コ</sup>シ<sup>シ</sup>蒸<sup>蒸</sup>気<sup>気</sup>絶<sup>絶</sup>ル<sup>ル</sup>ト<sup>ト</sup>ナ<sup>ナ</sup>シ<sup>シ</sup>用<sup>用</sup>心<sup>心</sup>キ<sup>キ</sup>ビ<sup>ビ</sup>シ<sup>シ</sup>中<sup>中</sup>女<sup>女</sup>モ<sup>モ</sup>情<sup>情</sup>タル

ト<sup>ト</sup>ナ<sup>ナ</sup>シ<sup>シ</sup>船<sup>船</sup>中<sup>中</sup>万<sup>万</sup>事<sup>事</sup>鳴<sup>鳴</sup>物<sup>物</sup>ニ<sup>ニ</sup>テ<sup>テ</sup>指<sup>指</sup>揮<sup>揮</sup>ス<sup>ス</sup>蒸<sup>蒸</sup>気<sup>気</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>笛<sup>笛</sup>ル<sup>ル</sup>ニ<sup>ニ</sup>別<sup>別</sup>ニ<sup>ニ</sup>穴<sup>穴</sup>ア<sup>ア</sup>リ<sup>リ</sup>テ<sup>テ</sup>蒸<sup>蒸</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>上<sup>上</sup>ハ<sup>ハ</sup>蒸<sup>蒸</sup>気<sup>気</sup>コ<sup>コ</sup>レ<sup>レ</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>リ

モ<sup>モ</sup>レ<sup>レ</sup>テ<sup>テ</sup>車<sup>車</sup>マ<sup>マ</sup>チ<sup>チ</sup>ラ<sup>ラ</sup>ズ<sup>ズ</sup>蒸<sup>蒸</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>ス<sup>ス</sup>レ<sup>レ</sup>ハ<sup>ハ</sup>蒸<sup>蒸</sup>気<sup>気</sup>車<sup>車</sup>ニ<sup>ニ</sup>当<sup>当</sup>リ<sup>リ</sup>テ<sup>テ</sup>車<sup>車</sup>旋<sup>旋</sup>轉<sup>轉</sup>ス<sup>ス</sup>ノ<sup>ノ</sup>蒸<sup>蒸</sup>気<sup>気</sup>船<sup>船</sup>一<sup>一</sup>昼<sup>昼</sup>夜<sup>夜</sup>八<sup>八</sup>百<sup>百</sup>里<sup>里</sup>ナ<sup>ナ</sup>リ<sup>リ</sup>走<sup>走</sup>ル

火<sup>火</sup>輪<sup>輪</sup>車<sup>車</sup>ト<sup>ト</sup>云<sup>云</sup>者<sup>者</sup>アル<sup>ル</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>シ<sup>シ</sup>是<sup>是</sup>ハ<sup>ハ</sup>八<sup>八</sup>百<sup>百</sup>里<sup>里</sup>陸<sup>陸</sup>上<sup>上</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>走<sup>走</sup>ル<sup>ル</sup>ト<sup>ト</sup>云<sup>云</sup>リ<sup>リ</sup>ノ<sup>ノ</sup>九<sup>九</sup>日<sup>日</sup>粟<sup>粟</sup>濱<sup>濱</sup>ニ<sup>ニ</sup>テ<sup>テ</sup>書<sup>書</sup>翰<sup>翰</sup>受<sup>受</sup>取<sup>取</sup>ノ<sup>ノ</sup>節<sup>節</sup>彼<sup>彼</sup>ヨ

リ<sup>リ</sup>上<sup>上</sup>陸<sup>陸</sup>ノ<sup>ノ</sup>人<sup>人</sup>数<sup>数</sup>吾<sup>吾</sup>人<sup>人</sup>ナ<sup>ナ</sup>リ<sup>リ</sup>一<sup>一</sup>日<sup>日</sup>上<sup>上</sup>陸<sup>陸</sup>軍<sup>軍</sup>ノ<sup>ノ</sup>本<sup>本</sup>舟<sup>舟</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>リ<sup>リ</sup>大<sup>大</sup>炮<sup>炮</sup>十<sup>十</sup>余<sup>余</sup>挺<sup>挺</sup>アリ<sup>リ</sup>是<sup>是</sup>ハ<sup>ハ</sup>祝<sup>祝</sup>炮<sup>炮</sup>ノ<sup>ノ</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>シ

一<sup>一</sup>日<sup>日</sup>陣<sup>陣</sup>列<sup>列</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>正<sup>正</sup>シ<sup>シ</sup>音<sup>音</sup>楽<sup>楽</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>奏<sup>奏</sup>シ<sup>シ</sup>因<sup>因</sup>玉<sup>玉</sup>ノ<sup>ノ</sup>書<sup>書</sup>翰<sup>翰</sup>中<sup>中</sup>ニ<sup>ニ</sup>ハ<sup>ハ</sup>サ<sup>サ</sup>シ<sup>シ</sup>守<sup>守</sup>固<sup>固</sup>メ<sup>メ</sup>ル<sup>ル</sup>組<sup>組</sup>三<sup>三</sup>百<sup>百</sup>八<sup>八</sup>十<sup>十</sup>人<sup>人</sup>一<sup>一</sup>隊<sup>隊</sup>四<sup>四</sup>十<sup>十</sup>八

人<sup>人</sup>宛<sup>宛</sup>六<sup>六</sup>隊<sup>隊</sup>アリ<sup>リ</sup>一<sup>一</sup>隊<sup>隊</sup>ニ<sup>ニ</sup>人<sup>人</sup>宛<sup>宛</sup>指<sup>指</sup>図<sup>図</sup>ノ<sup>ノ</sup>人<sup>人</sup>アリ<sup>リ</sup>何<sup>何</sup>モ<sup>モ</sup>劔<sup>劔</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>按<sup>按</sup>テ<sup>テ</sup>指<sup>指</sup>揮<sup>揮</sup>ス<sup>ス</sup>法<sup>法</sup>則<sup>則</sup>能<sup>能</sup>ク<sup>ク</sup>居<sup>居</sup>候<sup>候</sup>ト<sup>ト</sup>云<sup>云</sup>シ

速<sup>速</sup>カ<sup>カ</sup>タ<sup>タ</sup>シ<sup>シ</sup>前<sup>前</sup>代<sup>代</sup>未<sup>未</sup>開<sup>開</sup>ノ<sup>ノ</sup>ト<sup>ト</sup>共<sup>共</sup>ナ<sup>ナ</sup>リ<sup>リ</sup>ノ<sup>ノ</sup>国<sup>国</sup>王<sup>王</sup>ノ<sup>ノ</sup>書<sup>書</sup>翰<sup>翰</sup>ニ<sup>ニ</sup>テ<sup>テ</sup>相<sup>相</sup>何<sup>何</sup>シ<sup>シ</sup>モ<sup>モ</sup>板<sup>板</sup>三<sup>三</sup>重<sup>重</sup>ニ<sup>ニ</sup>テ<sup>テ</sup>子<sup>子</sup>チ<sup>チ</sup>板<sup>板</sup>ニ<sup>ニ</sup>テ<sup>テ</sup>留<sup>留</sup>ル<sup>ル</sup>下<sup>下</sup>夕

ノ<sup>ノ</sup>箱<sup>箱</sup>高<sup>高</sup>サ<sup>サ</sup>五<sup>五</sup>寸<sup>寸</sup>横<sup>横</sup>五<sup>五</sup>長<sup>長</sup>一<sup>一</sup>尺<sup>尺</sup>三<sup>三</sup>寸<sup>寸</sup>ナ<sup>ナ</sup>リ<sup>リ</sup>板<sup>板</sup>ハ<sup>ハ</sup>ガ<sup>ガ</sup>ヤ<sup>ヤ</sup>シ<sup>シ</sup>金<sup>金</sup>ノ<sup>ノ</sup>總<sup>總</sup>金<sup>金</sup>物<sup>物</sup>封<sup>封</sup>印<sup>印</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>キ<sup>キ</sup>候<sup>候</sup>処<sup>処</sup>上<sup>上</sup>金<sup>金</sup>四<sup>四</sup>寸<sup>寸</sup>位<sup>位</sup>ノ



○如玳蓋ヲシテ其辺色ニカサリアリ尽立派ノモノ也倉間ハ趣一向分ラス又彼重官ヨリ玳方  
重官ノ書帖アリ紙包ニテ封印有之使節上官副將四人分上段ノ間(曲口ヲ設ク奉  
行ハ床几ニ腰ヲカケ對面一切之對ナシ只請取渡シテニナリ其節イボレツト付候モ玳  
五人トシ押込上段ノ間(上リ使節ノウシロハ立塞ル何モ六挺仕懸ノ筒ヲ持テ劔ヲ帶ス  
イボレツト付候者ハ余ホトヨシキ者ノヨシ光年  
ボストン渡来ノモツト大將分二人ヨリ外イボレツト付候者シ  
のイボレツトハ金ノ板金ヨリフサヲサケカサリ及モノ  
西肩(下ルナリ)ノケル組何レモ人品宜敷裝束モ立派冠ニ赤黒ヲモツケケアル車カ  
ノ者ハ冠ノ外ボツト等(車ノ印ヲ付タリ銃炮概リハ銃炮ヲ付舟カハイカリヲ付ル  
琉球モ七艘カケ置ク玳方出帆直ニ琉球ヨリシヨリ廣東(往キ當時イキリス明末ノ兵ヲ助ケ  
清ト取合アリ故ニイキリス(軍見舞ヲシ帰国イタスト云リ)ノアノリカハ先年ハイキリス  
ニ制セラレイキリスノ催促ニテ出陣等致シ大ニ役セラレ故又取合ニナリ打勝テ和平取  
結ビ以來對々ノ国トナリ是ハ七十六年前ノ由  
自司ノ推 共和政治七十六年ト書 年号 ヤワロセ千八百五十二年ノヨシ

○士大將以上ヲモ上官是ヲ指揮ス是モ劔ヲ拔キ指揮ス劔ノ長サ二尺三四寸位長キハ三尺  
位モアリ○玳度ノ異人イキリスニ比スレハ温順ノ方ナリ總テ法則ノ整ヒ居テ去  
ナラウ書簡受取サレ前ハ尽ク殺氣立テ色ト子ナケシ言ヲ甲シ応接甚ク難儀イタシ  
及處受取ル後ハ大ニ落付テ様子ニテ別テ扱ヒヨク相成テ玳方守備如何ニモ手薄キ  
故五一事ヲ起サレテハ大變ニルテ故ドツ迄モダマシヨシ穩便專要取扱ヒ及ヨシシカン不  
遠内マタ未船ノ様子玳後ハ如何相成テモノカドノ道參ルニ相違ナク及ノ異人六挺仕懸  
ノ筒ヲ持タセ者ナシケバール組モ腰ニサミアリ○玳度彼ノ贈リ物ハ公邊ヨリニ非ス奉  
行ヨリナリ彼ヨリ贈リモノ有ニ付返礼ニ遣ス 香山榮左門多書終

近藤良治ヨリノ聞書

○六月三日下田沖(異船帆カケ見ユル付下田ハ時出立ノ注進舟未異船浦賀着八廿女  
シ過ニ下田沖ヨリ浦賀迄半時ニタラスニテ兼込ハ海上三十六里ノ異船ノ節  
佐倉相太郎中島三郎介近藤良治 三人共志 兼付及處決テ上船ヲ許サヌ國























*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

嘉永二年丑六月晝八ツ時乘入異船北里利加四艘軍艦二

走水觀音崎と乗込浦賀遠大駭キ俄ニ備三ホリ軍艦

間、蒸氣船を挟み旋ヲ卸シ大銃ノ筒先此方ニ指シ

願書ハ目代欽浦賀奉行ニテモ云ハシ度ニテ一ツ居一切

船近リニ寄セ附不レハ申

幕ニ付若老本多越中書目付五人 戸川中務少輔 浦賀、出帳

友島ノ内浦賀固メテ付シ皆陣初減退申シテ出立

テ、蒸氣船を乗取テ本牧迄ト申テ又ニ乗込ニ又入リテ

走り歸リル

幕時 幕府諸有司惣一登城毎リ評議ナリ時ニテ二トモ三本

七ノ由博シク夕七ノ事ニ因テ老所於伊勢方約印集上於九ツ道

時迄出立テ 約印ハ本牧散テノ由具テ寺領有銀リ地走申

出立 伊勢方夫々リ去ニ登城 將軍家ニテ

父ノ二寝也亦遊ニ由待セツ時ニ過帰館

老 當時闇夜中王位授シテ希ニテ夜中亦登城

約印ハ系リテ 約印ハ系リテ 約印ハ系リテ











合衆國の基律及諸律は固<sup>り</sup>其各國民人に禁戒を下し他  
邦の民の教法政治を好くあることをせしむる事<sup>も</sup>水  
師提督ペリリに命<sup>し</sup>て是等の<sup>事</sup>を嚴禁せしむ是<sup>を</sup>五月の  
安穩城好けさる<sup>事</sup>を命<sup>し</sup>てあり  
北亞墨利加合衆國と大西洋より大東洋に達するの國に  
し<sup>て</sup>勃中其<sup>の</sup>オレゴン州及い<sup>て</sup>南里伏爾尼亞の地と<sup>り</sup>此<sup>の</sup>  
國と<sup>の</sup>對<sup>し</sup>て我<sup>の</sup>蒸氣船南里伏爾尼亞を發<sup>し</sup>て十八日  
を徑て<sup>て</sup>此國に達する<sup>事</sup>を命<sup>し</sup>てあり

我<sup>の</sup>南里伏爾尼亞の大洲は毎年凡<sup>に</sup>金六千万ドルラ<sup>ル</sup>按<sup>て</sup>  
一<sup>ドル</sup>ラ<sup>ル</sup>は和蘭のニキエルデニ<sup>に</sup>五<sup>に</sup>一<sup>に</sup>に當ると云<sup>ふ</sup>今  
一<sup>キル</sup>デニ<sup>を</sup>銀四<sup>百</sup>五十<sup>分</sup>ニ當ると云<sup>ふ</sup>今  
と定<sup>む</sup>る事<sup>は</sup>銀六<sup>千</sup>五百<sup>兩</sup>ニ當<sup>り</sup>本<sup>邦</sup>銀若干水銀若  
邦一<sup>千</sup>一百<sup>五</sup>十二<sup>万</sup>四<sup>千</sup>九<sup>百</sup>兩ニ當<sup>り</sup>銀若干水銀若

千室石若干種及い其他諸種貴重<sup>の</sup>物件を産<sup>出</sup>し日本<sup>に</sup>は  
豊島肥<sup>沃</sup>の國<sup>に</sup>し<sup>て</sup>歳多貴重<sup>の</sup>物品を産<sup>出</sup>す貴國の民亦  
諸般の技藝に長<sup>ず</sup>り予<sup>の</sup>志<sup>は</sup>二國の民を<sup>し</sup>て交易を行  
はんと欲<sup>す</sup>是<sup>を</sup>以<sup>て</sup>日本<sup>の</sup>利益と<sup>す</sup>亦兼<sup>て</sup>合衆國  
の利益を<sup>も</sup>たんと<sup>す</sup>を命<sup>し</sup>てあり

是<sup>を</sup>以<sup>て</sup>往<sup>來</sup>の制度支<sup>那</sup>人知<sup>者</sup>を<sup>除</sup>くの外<sup>は</sup>外邦<sup>と</sup>交易  
ありと<sup>し</sup>て禁<sup>む</sup>る事<sup>は</sup>固<sup>り</sup>不<sup>可</sup>知<sup>し</sup>あり然<sup>し</sup>も世界中  
時勢<sup>の</sup>變換<sup>は</sup>隨<sup>ひ</sup>て改革<sup>の</sup>新<sup>政</sup>行<sup>は</sup>る<sup>時</sup>不<sup>可</sup>不<sup>得</sup>也其  
時<sup>に</sup>隨<sup>ひ</sup>て新<sup>律</sup>を定<sup>む</sup>るを智<sup>と</sup>稱<sup>す</sup>然<sup>し</sup>も是<sup>を</sup>舊<sup>の</sup>制度<sup>の</sup>  
法律<sup>初</sup>て世<sup>に</sup>不<sup>可</sup>開<sup>へ</sup>る<sup>時</sup>今<sup>より</sup>此<sup>れ</sup>を<sup>見</sup>て<sup>は</sup>既<sup>に</sup>  
甚<sup>く</sup>古<sup>き</sup>たり



此時代の為るに 亞墨利加洲始て見出され或は此邊を  
新世界と名づけ 波羅巴人此邊に任據せり此頃在りて  
亞墨利加人人民稀少し其民皆貧陋多し其處に  
民口大に蓄息し交易亦甚弘博に多し故に殿下若回律  
を改革し兩國の交易を允準せしむに於て 兩國の利益極  
めて大なること將あり

此邊に殿下若回律の交易を禁停する古來の定律を全  
く廢棄するを欲せざるも 五年或は十年を限りて允  
準し以て其利害を考し若果して其國の利ありしに於てハ  
再回律を回復して可き凡合衆國他邦に盟約を行は  
し常の數年を限りて約定し而して之を便置あるを知る

と此を再々盟約を尋くありと云

予又水師提督の命し一件の事を殿下に告明せしむ  
合衆國の船每歲南里伏爾尼亞より支那に航するもの甚  
多し又絲綢の如く合衆國日本海峽に近づくもの少く  
此而して若し此の如くは其の進出を待て彼國に於て其  
難民を救はるを待多しあるは是なり切に詰ふべき  
予又水師提督の命し一件の事を殿下に告けしに蓋  
日本國の石炭甚多く又食料多記あるに予り嘗て聞知し  
る事あり我々國用する所の蒸氣船其大洋を航するに



方て石炭を焚出せし甚多し而して其石炭ハ亞墨利加より搬運せしと云ふ其不便知し是を以て予強しくハ我國の蒸糸船及其他ノ諸船石炭食料及水を行く為ニ日本ニ入る所を許さしむとを請ふ其價ニ價銀を以てすし或ハ安國の民人好む所の物件を以てすも可あり請殿下安國の南地ハ於て一地を扱ひ以て我々船の入港を許さしむとを是予々深く歎み所あり右の故の以て予今水師提督ベルリニ命し一隊の軍艦を以て安國有名の大府江戶に到らしむ和親交易石炭食料及ハ合衆國難民の撫卹ハ即其件ニあり予更ニ水師提督ベルリに命し殿下に菲微の土物を献

せしむ列ハくハおきを容れんとを其物因甚々其うり此と雖亦以て合衆國中諸物製造局の概を見るに足る屋く且予々正實效受の微衷を表すことと云へり伏しむ祈る皇天殿下ハ為ニ祥を垂れんとを爾書し予々て爰ニ合衆國の大印章を印し且自名姓を署此時ニ千八百五十二年十一月三日 我嘉永五年 予々改務の本所亞墨利加ワシントン府ニ於て也

伯理爾天徳の命を受けて

外國事務宰相

エドワード エヘット 親筆

ミルラルト ヒルモオレ 親筆



浦野為滋來之亞墨利加那ヨリ差出ル書翰之和解書二  
冊其達ハ此後ハ條約國家ハ此一大事ニ有シ不容シテ  
ハ古古篤ク執着セシムル熱心ヲ存スル事ニ  
シテ依令為澤ニ節制シテ事ヲ行フ所ニ至テ  
ハ中々ナク

秋後亞墨利加那邦集シ書翰ヲ傳フ所ニ至テ  
一時ハ條約ニ異一有テ事ハ泥在ニ爲テ  
其七日初リシ之也

此書翰之解書ニハ六月廿七日ヨリ三月廿七日ヨリ  
日ハ七月廿七日ヨリ三月廿七日ヨリ

合衆國書翰和解

亞美理駕大合衆國大統領姓斐護名美辣達

日本國

大君主殿下平安、大尊大教良友乎、今特派本國師船大

臣水師提督彼理管領一船兵船帶公書到

貴國境專呈

殿下御覽矣茲面詢該水師提督轉告朕心久欲与

貴國和之真意請

殿下教思今要我兩國藉興和友之結好兼立通商之章

程今令欽差彼理來

貴國為辨此二事故達

君主殿前吾合衆國規矩定例嚴禁各官揮管別國之政



禮故此明諭該欽差在

貴地之時不可勞動貴處人民今合眾國廣大東西邊疆各極  
於海在西界正對向日本國若坐大輪船離加理科亞者或  
由呵狸于那駛過平海十八晝夜能到

貴國之口岸也合眾國之一省名叫加理科亞是大邦土產多  
每年出黃金僅四十萬兩之多同白銀水銀寶玉等物日本  
亦然富澤多產寶物貴人明曉多藝故此而鄰國互相往來  
必得大益朕亦為此要開高意矣茲知悉日本國之古例三准  
中國呵喃國船通商除此二國之外不准別船進埠祇因世  
間之情萬國之改漸多有改復古例易新也

貴國初立古例之時亞美理駕即名新地球由歐羅巴人離本  
屬入住此山巖地耕種在彼長久人民為少且貧迄今民生

繁華貿易年盛布各處量

殿下畫悉倘能改古例以准我兩國人賣買則各伴得大益矣如若  
君主只准古例禁止別國船入埠是照依國法不妨先試數年或  
五年十年之間能知有利否或因賣買無益然後仍復古例  
可也夫本國與別國立約亦定數年之尾若回兩國不願再不  
能新約其我兩國各試暫開港口兩後可知何樣也又諭該欽  
差告陳

殿前每年奉國船離加理科亞駛往中國者甚眾抑有獵鯨魚  
船多有常近

貴境此等各船或遭颶風擊碎在海遠雖船身破入貨而全朕  
慮此等之部命者回思

貴國官民見此等船量必安撫恩待仁慈而人物皆保苗俟有



本國船列即帶歸也且憐本國之民六是五倫之內豈

君主不知乎若不及此論則不決人心矣且聞

貴國多產煤炭食物繁盛故諭飭該欽差面告本國火輪船

渡平海去中國者計燒煤炭數萬石其船不能多裝在途不敷

是用多設接濟而回本國又不便以各船要入

貴國港口買煤炭食物接濟并配水之使如買物或將銀錢或以

各貨充之可也請

君主議指南境一港口能使本國各船暫泊而得買此項物金布食

水此事務希速即

允准免阻遠望而快心也今諭該欽差彼理坐鎮一幫兵船越

貴國來江戶名京代為拜見中朕敬思我兩國設友意開貿易

俾本國船能找項食煤等物兼保憐苦楚人氏除此等事務

之外該欽差別無他意再船內裝有教件本國巧藝布帛進  
呈

君主收納弗覽卑物知朕思友意敬之記願

全能真神保

君主受万福感聖顧哉

知此公書是實看本國大玉璽及書名書押為證

亞美理駕大合眾國本在華威頓西國記年之一千八百五十二年十

一月十三日即壬子年十月初六日封

大學士依斐烈奉初書

華殊御

國



亞美理駕大合衆國大統領姓斐謨名美辣達

日本國

大君主殿下平安今朕心全賴本國師船水師提督彼裡芝見識  
端白才德之臣故特頒勅賜之欽差全權代

大合衆國來

貴境而回

大君主所派全權之一二臣等有意欲定意鈴印兩國和議通商  
船進港口且有條約章程及名緊要事務均屬該全權等彼  
此辦理嗣後該欽差彼理刺奏候奉朕旨公會大臣議定允  
旨批准

亞美理駕大合衆國京在華威頓西國記年之一千八百五十二年

十一月十三日日本國立改之七十七年即壬子年十月初六日書名  
畫押鈴印為證

華辣御

國璽

大學士依斐烈奉勅書



亞美理鳩大令衆國欽差大臣兼管本國師船天竺中國日本等海水  
師提督大臣彼理為申陳事切本欽差現奉  
本國大統親欽差全權行事領一幫師船未  
日本國境里求

大皇帝殿下請議兩國和睦之條約奉上

吾君主公書并本欽差勅書此二書現已鈔寫英字呵蘭字漢字  
等書錄呈

御覽惟此二書之正稿理合固封候召見之日面呈

大皇帝備閱並特奉面諭轉告

吾君主覽思於

陛下慰和之意故曰

吾君主久願合衆之民自心要投

貴地或被狂風漂至海邊該民等被貴處官民見之如仇敵故

吾君主心甚憂慮今指教年前有三船名曰嗎喇唯棘都喇噠連吐

等人船漂到海邊皆受許多委曲等由本欽差奉諭面陳

殿下並請

俞允定約嗣後遇有合衆國人船漂至海邊或被狂風吹進港口不

得以仇敵待之且有

貴國之船或遇風壞抑漂流本國口岸者常多資助回籍况西

國於本國官民都知人倫靠蘇之道皆可保船壞人亡者此等

之事亦求

鑑察日本國與歐羅巴各國無結連之盟而本國律例各官不嘗

本民之教何況能亂別國之政乎先三百餘年歐羅巴初到



貴地之時入任本山聖法迄今三大邦在日本歐羅巴之中東西  
連海歐羅巴人早住在東如今民生滿地流治至西道正對  
日本如坐大輪船渡平海十日或二十日能抵  
貴境現在天下貿易年一變國而  
貴國海日船甚多倘若  
貴官民不把合衆之民當仇敵者  
吾君主更下

大皇帝兩國立定和約况貴國初設律例禁洋船進港口之時是  
智政明戒今我西國鄰近豫先注來甚易現今時世不同不  
能依智政照古例之戒本欽差思念  
陛下六覽知現在之大概情形順此誠定立定和約則兩國免起鮮  
端故先生領四小船來近

貴京而達知其和意本國尚有教号大師船特命駛來未到日盼  
陛下允準如若不和來年大船兵船必要駛來現望  
大皇帝議定各條約之後別無緊要事務大師船亦不來且有  
吾君主和理之公畫候指定何日面呈  
御覽明鑑  
大皇帝九五至尊福壽無疆頃至陳告者

癸丑年六月初二日

大皇帝九五至尊福壽無疆頃至陳告者  
御覽明鑑  
癸丑年六月初二日



亞美理駕大令衆國欽差大臣兼管本國師船現留泊日

本海水師提督彼理為申陳事奉本國

大統領欽命全權使臣行事議和立約要同

貴國欽命一大臣高議定於何日何時來京面見

大皇帝將

本國主必書及勅書之正稿二件謹呈

御覽候飭一大臣早定日期可以互相議明肅此敬候

崇安

癸丑年六月初七日

敬啓者今送來公書一封內許多重大緊要之事乃連

及

貴國故要謹慎商量而定希

貴國大臣等諒必議擬長久之各條本欽差甘心候來年春

季帶各船來江戶海候回着然後全望能便立約我兩

國永久和睦也特此佈啓順候

日喜

欽差大臣水師提督彼理書文

在本國火輪兵船蘇士貴軍那江戶海癸丑六月初八日

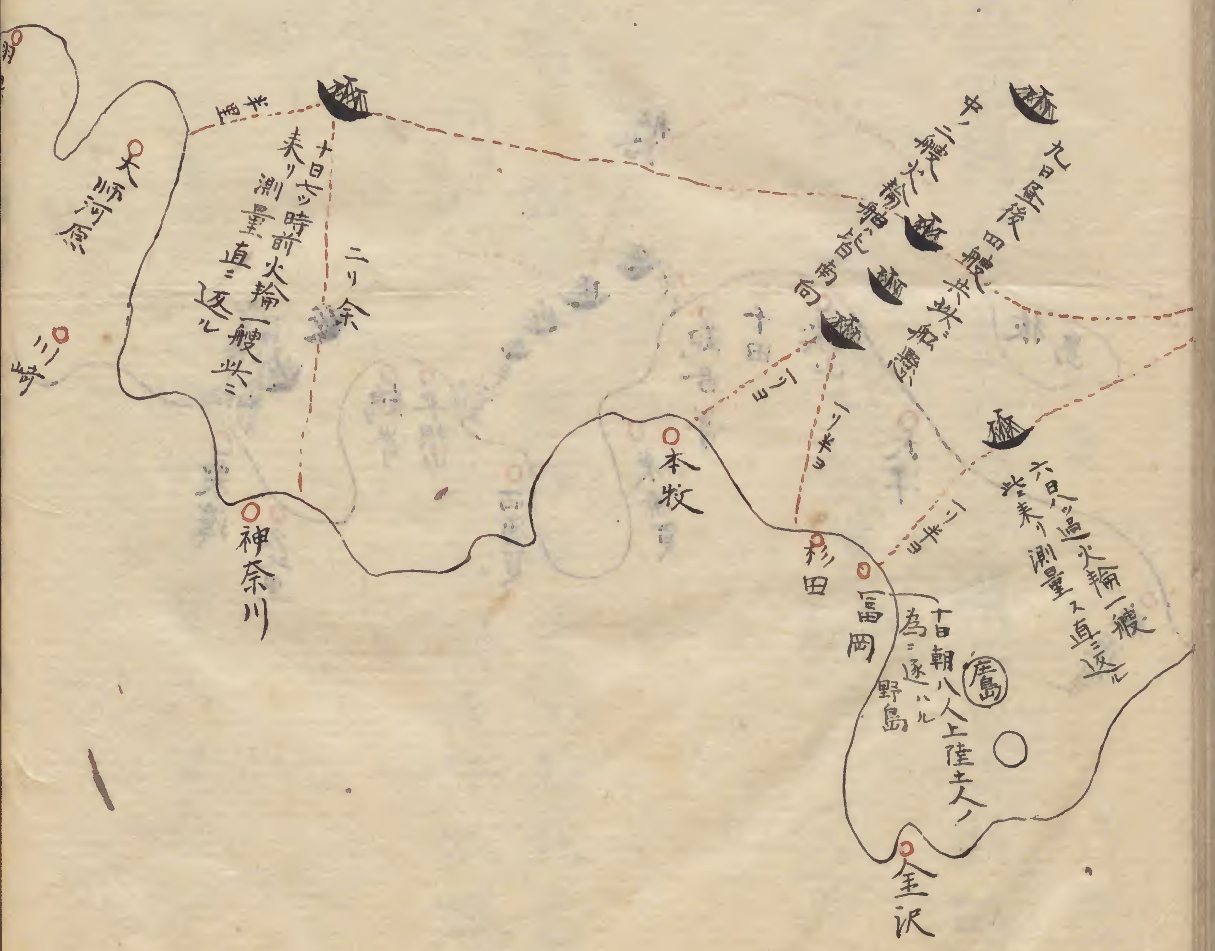
三ノケシナ





栗濱大浦賀... 船路... 徳洲... 光先... 富津... 竹岡... 久比里... 平根山... 鶴崎... 西浦賀... 東浦賀... 觀音寺... 十田... 旗山... 大津... 旗島...





本島  
 大島  
 神奈川  
 野島  
 金沢































ある人と思ひあはる故方毎来昇平の代にほせしを廢たして  
今迷ふ倒懸の苦を受しあはり又は是とて通りを平少し  
都禮あはる人と思ひあはる是を途を知と不知との二つ  
別は一筆に在る言と飲会しし様指せざるべしとて

二は母及目同をあらわす

無名多く云下字多し信来多し魯西五能くくししとて細  
く彼多夫相多家の苛政酷為苦し又魯西五の民多し  
を彼多魯西五帝を憐て控有せかへ我民とあはるすを歎  
此を能知と云わ朝と能知と云ふ不致す親しし路へま針  
おふ出たり云は徳操と勉強せしめ夕はれ<sup>こ</sup>カ成信しし  
させ出いせるといふ如くは秋卒の可責も同系依し徳考

しと眠徳也夫人男女の道存くふを後る子少し自ら人別  
減少し基あり時と朝夜く夫夫を山おし子路く安ん民遠也  
三妻故り其流れ多故きも其すを思て律行お及ん<sup>と</sup>出る  
を能くあらめ流しして強知せしめさる魯西五人の仁徳し  
和ん其徳しするを危皆和ん種故を別し堪く其節骨弱  
く妻婦、費妻付流しするも先夫の妻大折し身は虚弱  
しのみを強と不憐しとて

卷

日本に封建しるる故地を諸侯に能分ししは但せ多く右宮能  
をいし由制と云ふの如く中民て夫人控有れ而操つる故  
子ハ勿論し先年文化十百年後境しするにイリコルト今











右通之之意和解其了也

丑三月

西吉多

森山學

福村學

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

大君皇帝首仁幸未俄羅斯統與主事之上宰相子也利羅

德遞呈

大日本國貴御老中

大君皇帝俄羅斯統與之主事遠祝

貴國當日物情日思西大國疆域相銜之重事遂起善

意乃選御前大臣俄羅斯水師將軍布格廷永平奉施

全權遣使前往大

貴國志之一者乃詳細識別當日一世之象變

貴國之情形如何為以至露懷

大貴國命運所感之心是也再者乃題起兩件之事以使兩

國屬人皆得進其益以斷決兩國未日相磨相疑處即

大皇以至於相和平安之誠實也首件事



大皇帝所愿行者乃分明境界之地此事既知當日物情及視  
圖注兩國象海有何無所等之圖便

大皇帝以為緊要今即起事相会高議方定决

貴國屬之海島何者界北方未尾之界多本國所屬之  
海島亦何為南方未尾之界多以外屬兩相說明如ウ  
之南岸如何也

大皇帝既主俄羅斯自古以來未有之國大廣如以自然等需要  
得何新地然而不堪失屬人之真利因靈明忠之明定

兩國疆界者乃為相和平安之本也第二件之事

大皇帝誠所歎行者乃准本國屬人無碍未至

貴國海口相換貨物交易臨時本國兵船渡海往ウ  
ウ加及北ウめり加地者有緊急事須到

貴國海口以備所需亦無禁依其意之也無礙

貴國必明此意者他無犯

貴國真利也本國於

貴國以交界之故彼此相交自然之理義有大而越遇他各

遠國之理亦可明之矣以皆該御前大臣水師將軍布怡廷

所奉命詳細傳明之貴御老中道越明可見本國意慮者

絕無所不符板裏正理矣此事皆該將軍所欽奉全權道

照細訓勅令會

貴國大憲相與議論而後遵照上命立定約會章程矣從而

言之遣使朝

大日本國

大主之定向者一則乃開卷本國意想天下當日物情奈何二則乃



解明分疆界緊要之事三則乃開啓兩國屬人互相有益有  
實之交以致兩大國於至善至寧之地位也無疑將欽差  
有大重事御前大臣水師將軍布怡廷  
貴國必待厚照禮秩與其高位矣亦無疑  
貴國

大主之智賢宰相諸老皆留心察本國所題之皆事及該欽  
差大臣所稱謹列之解諸即行勉力完備互相有益事  
之始終矣

書在御都きべりてりふりけ八月二十三日一千八百五十二年

大君皇帝俄羅斯統與主宰即位以後二十七年

國宰相公子也利羅德

印

大俄羅斯國御前大臣欽奉全權使東海水師將軍布怡廷為  
照會事謹傳本國首宰相國公子也利羅德所書之俄羅  
斯文加何蘭陀之語處呈

大日本國

貴御老中以易通明本大臣遂照副本加唐語以述之自於國  
公子也利羅德之文

貴御老中必可見本大臣未始有大重事以內緊急之良  
分明兩國疆界之事也此事也若必宜

貴御老中會于本大臣兩相議論之蓋

貴國必不堪使本大臣一人者擅定兩國之疆界矣議備  
此大重事之人遂時必宜遮擋至

貴御老中遂因以即得依議之勅必宜居在



























地准其駕船入港但下田港應以鈔銀約書之日為之  
始箱數應以去年三月始開其給發該物應自日本官  
吏講價報知而抵以洋金洋銀也

一 合衆國亦漂到日本諸處海濱者應救恤周濟其所  
携諸物具船送致之于下田或相贈付之該國人到  
港者其周濟漂民諸費頂彼此兩國皆不用追支也  
一 漂民及到港合衆國人應同海外諸國之儀從容待之  
不得一處安置也但至日本正理之例合衆國人亦不  
得不甘心從順

一 合衆國漂民及其他到港者西港官吏不應做長崎  
港置唐山和蘭諸國人之制而禁錮也但下田港則其  
港內小島居中向四方步遊七里若箱數隨行步  
之規應俟日後量度較定

一 或要覓必需諸物及其餘宜見允准之事應兩國議定  
一 合衆國亦到兩港者准其以洋金洋銀及諸貨抵換必  
需物應謹守日本政府法制若其所發諸貨不中日本  
人之意亦却之者合衆國人應甘心帶回  
一 其取薪水食料石炭及缺乏之諸物皆應從該地官吏等  
辭辦凡一丈一收皆不得私下相與也

一 嗣後日本政府倘以今不相允合衆國之事与他海外諸  
國相允則亦應同允之于合衆國安庸遲後待該也  
一 兩港既開則合衆國人除猝遇風颶之外不得向別











此書名之一種也子姓之國也西之子孫中...  
為之一言者... 此何如也... 此何如也...  
代而為人... 此何如也... 此何如也...  
此何如也... 此何如也... 此何如也...  
此何如也... 此何如也... 此何如也...  
此何如也... 此何如也... 此何如也...  
此何如也... 此何如也... 此何如也...

三首也

松平陸奥守

岩代 田村右系史

此何如也

此書名之一種也子姓之國也西之子孫中...  
為之一言者... 此何如也... 此何如也...  
代而為人... 此何如也... 此何如也...  
此何如也... 此何如也... 此何如也...  
此何如也... 此何如也... 此何如也...  
此何如也... 此何如也... 此何如也...  
此何如也... 此何如也... 此何如也...



右内之松平陸軍守  
此作何事請于其下

他作右...

松平陸軍守

惟此地之勲為人教善... 勲之...

右内之...

他作右...

右内之...

他作右...

思及之... 日有持...

右内之...

今及陰... 之... 之...

仁是...

此中... 一...



大東政  
日紅印但  
江中下  
解書所

五山内然  
五山要人

吉田橋下  
何美之近  
介村岸今  
山和甚下

目付

口長柳  
六十一

高橋忠清  
松沢信行  
海江信行  
松貝有兼

解源

武政

八  
三  
八

安山極  
寺山岩台  
寺井臨  
四村平  
麻又記  
多村忍  
少村塔  
四寔  
長沼  
小作

使部

口長柳

五山要人  
中區  
本橋

部定

軍部

目  
入江橋







破下田不... 僕抄中... 何... 去... 上... 右甲...

右甲...

Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side.

下田...

神... 中... 并... 以... 中... 物... 袖... 市... 友... お... 係... キ...



















